

強度行動障害の方をGHで支援する

強度行動障害の方を支援しているグループホーム（以下GH）は決して多いとは言えません。特に新設のGHは、自閉症への理解が乏しく、問題と思われる行動に対して、どのように対処していけば良いのか分からなくなってしまうのだと考えられます。重度自閉症の方に特化したホームを運営している、はーとふるの「東安根本ホーム」にお邪魔して、色々とお話を伺ってみました。

かんどう 巻頭インタビュー



社会福祉法人 はーとふる

どうあん ねもと

東安根本ホーム

理事長 小林 公平

住所：野田市船形310

電話：04-7127-3847（法人本部）



自閉症支援に携わって26年の小林さん。知識に裏付けされた支援方法を組み立てて行く。

ホームが出来た経緯を教えてください。

当法人は設立後すぐに、生活介護事業所の「ひばり」をつくりました。当時は職員の勉強不足もあり、上手くなじめない人や、強度行動障害の状態に陥ってしまう人がいました。そういった事もあり、自閉症スペクトラム特化型の生活介護事業所「みそら」を開設しました。それから10年が経ち「通ってきただけの人たちが次のステップとして、GHで生活するのはどうだろうか。生活の場所が変わることによってそろそろ対応できるのではないだろうか」と考えて、東安根本ホームを建てました。

このGHは強度行動障害者専用とされていますが、実は違います。そういった方を集めた訳ではなく、今までやってきたことの延長線上にあるだけです。強度行動障害にアプローチ（TEACCH）や応用行動分析



食堂に仕切りがあったり、廊下の途中に扉があったり、刺激を遮断する構造が随所に見られる

を活用したアプローチ）しているのは生活介護のみそらであり、GHはあくまでも、それを汎化（はんか）させる場所なのです。みそらで「教わる・変更することを学習する」というルーティンを習得しているから、利用者様の受け入れはさほど心配していません。

※汎化（般化・はんか）学習によって習得したことを別の場所や場面で応用させること

自閉症の方がGHで暮らしやすくなる工夫を教えてください。

例えば僕らは、こうして話している時にエアコンの音は気にならないと思うのですが、意識させられると気になってきますよね。彼らは、自分自身が何かをやっている時でも、音が全部同じボリュームで聞こえています。これは脳の処理の問題で、今の自分に何が一番重要な情報なのかを判断していくことが難しいのです。だから、処理のところで、どんな他の何かに関連付けていってしまいます。

それに対して僕らがやることは二つだけです。「これだけ見ればいいよ」「ほかのことは無視していいよ」と、視覚的にイラストカードなどで伝えます。パーティーションで視界を遮る、

イヤーマフをするのも同じです。廊下の造りも直線的にしていないのは視覚を遮って刺激を減らす為です。

汎化について、もう少し詳しく教えてください。

極端に言うと、このGHでは、自閉症の方に汎化をしてもらう為の支援だけを行なっています。

「強度行動障害で生活が大変だからGHに入らなければならぬ」ではなく、「そろそろ汎化させる場所に行きましょう」という発想で、GHに入ってもらうと考えています。

強度行動障害があると「どうやって支援したらいいの？」と戸惑うと思いますが、自閉症の彼らにとって理解しやすい世界へと、どう汎化していくかというイメージを持って頂きたいのです。そうすれば、他のGHでも、もっと受け入れが広がるのではないかと考えています。



職員の酒井建作さん。居室は最低限の家具が配置されベンダがある。安全が配慮されている。



絵カードやタイマーを使って、今やる事を確認したり、次の行動を促したりする。

入居者の特性に合わせて居室をカスタマイズしているのですか？

居室の内容は、通所先等と話し合って決めています。

通所先では落ち着いているのにGHでは落ち着かないという場合は、うまく汎化されていない可能性があります。

でも、これはチャンスです。問題行動こそ、本人の訴えや本人のニーズなのです。どう汎化していくかをもう一度考えることで、彼らのニーズを満たすことに繋がるからです。

自閉症の方が暮らしやすい環境をどう考えますか？

自閉症の人は変更が苦手と言われますが、毎回同じことをすると飽きてしまいます。構造化を入れて分かり易い世界にして

「これを見ればいいよ」と言っても、彼らは別の所も見たくありません。

僕らがやらなければならぬのは、自閉症の知識を活かして、彼らが豊かな人生を送るためにはどうすればいいのかを考えることだと思います。

自分の思いを伝えられない、理解できないから、問題行動を起こしているように見えますけど、本当は自分の目の前の世界に飽きていたり、こんな面白い人生なんて！という思いで、叩く等の行動に出たりしている可能性もあります。

落ち着いた生活を望むのは当たり前前のことです。僕たちも彼らと一緒に、落ち着く場所、落ち着く生活を考えていくことが大切だと思っています。

強度行動障害に関しては、小さい時からアプローチすることが大切です。お子さんの発達や



居室やGHのいたるところに、絵カードや行動を記したカードが配置されている。

東安根本ホーム概要

- 令和5年4月オープン
- 日中サービス支援型
- 定員8名(男性棟)
- 入居者は7名(7名が強度行動障害判定)
- 区分5が1人 区分6が6人
- 入居者の年齢は20代後半～40代
- 夜間支援体制は夜勤1名と宿直1名



世話人さんの為に入居者の行動スケジュールが分単位で記載されている。※モザイク処理しています

成長はもちろんのこと、親を育てて、先生を育てて、私たちも成長して、皆で育てていくのが理想ですよね。最終的には自閉症の方でも自己決定して暮らせる事が、地域社会で認められる世の中になって欲しいです。

強度行動障害の方を支援できるGHが増えて行くにはどうしたらいいと思いますか？

強度行動障害というのはそれ自体が障害ではなく、あくまで状態です。僕らは強度行動障害を作りたくないという考えで幼児期の支援もしています。大変な人ほど一つの事業所が抱え込んで見ていくことが多いですが、そうではなく地域全体で見ていくことが必要だと思っています。幼児期で言えば、僕らの事業所だけで見えるのではなく、幼稚園の先生や学校の先生に理解してもらって一緒に支援をしていく。外に出かけた時に地域の人に知ってもらうのも一つです。もちろん、キーパーソンになる支援者はあまり変わらない方が良いですが、理解してくれる人や知ってくれる人を増やすのは大事です。

グループホームも同じで、グループホームだけで抱え込むのではなく繋がる場所や人を増やして地域全体で支えていけると良いのではないかと思っています。

利用料金

- 家賃：¥35,000
- 水光熱費：¥12,000
- 日用品費：¥3,000
- 食費：¥20,000(食数で計算)

社会福祉法人

はーとふる

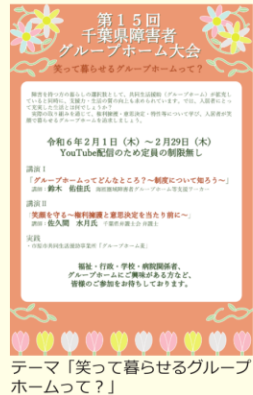
<http://heartful-noda.jp/>



こんごう けんしゅう
今号の研修



千葉県 / 千葉県グループホーム等支援事業連絡協議会主催
各種講座報告
千葉県GH等連絡協議会ではGHが抱える各種の課題に対して、協議会や研究班として取り組み、各種講座を開催しています。



第15回 千葉県障害者グループホーム大会

これまででは感染症予防の観点から、動画配信で実施していましたが、いつでもどこでも視聴することができることが嬉しいとお声を多くいただいたため、今年度も昨年同様に令和6年2月1日から2月29日の1か月間、YouTubeによる配信で実施いたしました。
障害者の暮らしの場の選択肢として、グループホーム（以下GH）が拡充していく中、支援

者の支援力・生活の質の向上が求められ続けている昨今、入居者にとって充実した生活とは何でしょうか。特に、権利擁護・意思決定・特性等、支援者が学ぶべきことを改めて考えていき、生活の基盤である場で入居者が笑顔で暮らせるGHとは何かについて実際の取り組みを知り、GHが目指すべき姿をとらせる機会といたしました。

講演1 「GHってどんなところ？」
制度について知ろう
講師 海匠圏域GH等支援ワーカー 鈴木佑佳氏
講演2 「笑顔を守る権利擁護と意思決定を当たり前に」
講師 千葉県弁護士会 弁護士 佐久間水月氏
実践 市原市共同生活援助事業所「GH麦」

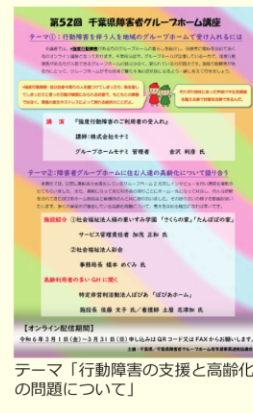
今大会も多くの関心をいただき、大会への参加申し込み者は590名、動画視聴数2310回となりました。今大会を視聴いただいた皆様と共に、テーマにある「笑って暮らせるGHって？」の答えを、希望を持てる形で、誰もが笑顔で暮らせる居場所が増えることへの足掛かりとなることを願っています。



第51回 千葉県障害者グループホーム講座

「医療的ケアGH研究班」
今回の講座は医療的ケアを必要とする方のGHの暮らしを紹介し、関心を深めていただくためのオンライン講座を開催しました。
全国から334名の申し込みがあり、動画視聴回数は1498回でした。
県内外のGHを視察させて頂きましたが、それぞれに思いを持って運営されていることや、安心して暮らしている様子にとっても感銘を受けました。
一方でいくつかの課題も見えてきました。それを、どのようにして解決へと導き安定した運営に繋げるのか？どうすれば医療的ケア対応GHが増えるのか？

今後研究班ではGH事業者と、私達GH等支援ワーカーの連携を強化し、課題を深掘りしたいと考えています。



第52回 千葉県障害者グループホーム講座

「強度行動障害GH研究班」
GHでの対応が難しいとされる強度行動障害者を受け入れているGHを視察し、どんな工夫をしているのかなどを考察する講座を行いました。今回の講座は視聴者の皆様に関心を深めて頂く事からスタートし、GHが強度行動障害がある方にとってその地域で暮らす為の選択肢になるようこれからも発信し続けていきます。
「高齢化問題研究班」
介護保険制度という後ろ盾がある高齢者施設が林立する中で障害者GHを終の棲家にする。それは、利用者としては喜ばしいことですが、GH側の目線も大切にしなければなりません。本講座では、きれいごと抜きに、現状をお伝えすることに力を入れました。生涯を通じて障害者GHで過ごしてもらう為に必要な事を考察していきます。

必要事項を考察していきます。

グループホーム向けの講座
ご案内はコチラ⇒

グループホーム等支援事業のホームページはこちら⇒
<https://chibaghw.org/>

きどあいらく 起努逢楽



各圏域を奔走するGH等支援
ワーカーを紹介するコーナー

きみつ けんいき たなか くみこ 君津圏域 田中久美子

社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
君津ふくしネット
住所：富津市青木2-16-14-101
電話：0439-27-1482

私の話をさせていたいただきま
す。というのも、管理者さんや
利用者さんに「以前は何をされ
ていたのですか?」「趣味は
何?」等、根掘り葉掘り尋ねる
くせに、自分のことは何も話し
てこなかったなど気付いたから
です。

私の旅は、長年の夢であった
アフリカ最高峰キリマンジャロ
の頂上から始まります。山屋は
山を下りたら次の山を目指すも
のですが、私を惹きつけたもの
はアフリカの自然や文化や人で
した。翻訳の仕事をしていた私
は、有給を最大限使ってアフリ
カのような国を旅するようにな
り、その間にアフリカ文学に出
会い、文学部に入り直して学び
始めます。その後ロンドンの大
学院に進み、アフリカの作家た
ちの本に埋没する日々を送りま
した。



アフリカが第一の転機だとす
ると、第二の転機は2005年
に訪れました。翻訳業に行き詰
まりを感じ、人と関わらずに黙
々と打ち込む仕事に性には合っ
ていたものの、そんな自分を变
えていく必要があるように思え
てきました。そこで足を踏み入
れたのが、介護業界です。おじ
いちゃん、おばあちゃんが好き
だったこともあるのですが、心
臓手術をした男性が「医者には
もちろん感謝だが、それ以上
に、ベッドの中で便失禁をした
時にキレイにしてくれた介護の
人にすごく感謝している」と話
していたことが、直接のきっか
けでした。

アフリカ文学では、西洋中心
主義においてアフリカが「周
縁」に置かれていることへの問
題意識からすべてが始まりま
す。介護職員として認知症の方
々と接する時に、その意識は常
に呼び覚まされました。例え
ば、「石の上にも365日」――
これは言い間違いではなく、そ
の男性にとつては真実です。ア
リのことを「ギ」と呼ぶ女性――
アリは虫へんに義と書き、義理
深い虫でもあるから、これも間
違いとは言えません。「痛い痛
い」としか発語しない百歳のお
ばあちゃんが、久しぶりの大好
物(ケーキ)を口にして、至福

の表情で発した言葉が「いた
い」・・・私は、人というも
の、とりわけ彼らが発する表現
に、魅了されていきました。
その後、介護福祉士と社会福
祉士を取得し、2022年11
月からGH支援ワーカーとな
り、今に至ります。障害の人と
接していて、自分と彼らの何が
違うのかと思うことが多々あり
ます。アフリカ文学でも、移民
が書いたものも含むのかなど、
境界は常に曖昧なものです。私
達の基準において対応の難しい
方は、他の文化圏ではいわゆる
普通の人かもしれません。
キリマンジャロから25年が
経ち、頂きの氷河は消え、福祉
の世界も激変しました。旅先で
は無数の人に助けられてきまし
た。今度は私が助ける番、と思
いながらも、今日も家に帰るこ
とばかり考えている私です。

君津圏域概況

(令和6年2月1日現在)

- 事業所数：49事業所
- 定員：1076名
- ホーム定員数
- 介護サービス包括型：815人
- 日中サービス支援型：240人
- 外部サービス利用型：13人
- サテライト型住居：8戸



へんしゅうこうき 編集後記



今月の巻頭インタ
ビューは強度行動障
害の方をGHで支援
しているフロントラ
ンナー「はーとふ
る」に取材に行きま
した。そこで一般
的なGHとの差に愕然
としました。設備、
支援方法、支援者の
知識や考え方など。

地域でこのようなGHを増やす
にはどうしたらいいのか。「点
滴穿石」コツコツ続けて行けば
石を穿つことも出来る。GHで
全ての障害者が安心して暮らせ
る地域を、GHの皆様と一緒に
作って行きたいと、改めて考え
直すいい機会となりました。

こんごう 今号の題字



千葉県立長生特別支援学校

今号の題字は、千葉県立長生特別支援学校高等部の3名が担当
させていただきました。この春に本校から巣立つ生徒たち。大
きく成長した自分に自信をもって、それぞれの道に進みます！

GH等支援事業のつらや
ホームちゃん GH等支援事業のHP
元ツイッター
現Xのページ

千葉県障害者グループホーム等
支援事業連絡協議会
暮らしを拓く
51号
発行 / 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会事務局
TEL / 0479-60-2578
MAIL / chiba@chibaghw.org
発行日 / 令和6年(2024年)3月16日
編集 / 連絡協議会 広報班